

第3回まち・ひと・しごと戦略茶話会発言要旨

日 時	: 平成 27 年 7 月 31 日 (金) 19:00~20:30
場 所	: 社会福祉センター
テーマ	: 定住・移住
参加者	: 10 名 (それぞれの分野で活躍している若手のかた)
市職員	: 5 名

1. 話題提供

資料を基に話題提供

2. 意見交換

参加者： 転入・転出の理由には、どういったものがありますか。

司会者： 湖南省では 10 年前までは転出よりも転入の方が多かったです。しかし、2009 年にリーマンショックがあった際、外国人が少し帰国しました。その頃から、外国人を含めて日本人も転出が増え、中でも若い男性が就職を理由に都会へ出ていったように感じています。

参加者： 実際に調査したわけではないので、どうかなと思いました。

参加者： 調査については、平成 27 年 8 月から市民課の窓口で転出・転入者を対象としたアンケートを行っていく予定です。

司会者： 市としては、ファミリー世帯が転出すると非常に困ります。市を活性化していくためには、ファミリー世代の存在が重要です。

地域おこし協力隊のかたは湖南省に移住した際に、湖南省にどのような魅力を感じて来られましたか。

参加者： 関東から来た私にとっては、滋賀県は子育てする環境については素晴らしいと思います。ただし、来るまでは湖南省のことは知りませんでしたし、湖南省を巡ってきたわけではありません。

私は I ターンという形を取りました。この資料には、「移住希望者向けの情報提供」とは書いてありますが、そのような情報が湖南省に関しては一切ありませんでした。

私がこちらに来たのは、原発事故による放射線汚染で関東が汚染されてしまったのがきっかけで、信楽で行われていた保養プログラムに参加することを目的に滋賀県に来ました。

このプログラムには 2012 年の夏に参加して、翌年 2013 年の春にはこちらに移住しています。このプログラムに参加して滋賀県に移住してきた家族は、私たちを含めて少なくとも 4 家族あります。湖南市民は私たちだけですが、信楽 2 家族、大津に 1 家族います。それだけ滋賀県は、暮らしていくには魅力的だということです。

関東では安心して暮らして行けなくなったという状況もありますが、向こうでは泥遊びするにも気を使っていたから。

建物にしろ、環境にしろ、美しい空気が思い切り吸えることも本当に素晴らしいです。ですが、保養プログラムに参加している人たちに湖南市を勧められるかと言えば、住宅が不足しているということもあって、「おいでよ」とは言えません。私たちが貸家を探すのに苦労しましたし。

仕事は何とかなると思います。我慢をして向こうで暮らしている人は相当の数いますので、近畿圏だけでなく関東圏の人たちを呼び込もうとするのであれば、「こんなにきれいな場所だ」「安心して暮らせる家がある」とか。

例えば、市営住宅に空きがあれば、そういう人たちに優先的に貸してもらえとか。岡山県は原発が近くにないのと、地震が少ないとあって、関東からの移住者がとても増えたと聞きました。沖縄か北海道か岡山かという感じになっていて、その次が京都です。その次に滋賀がきてもいいくらいだと思っていますが、滋賀は目立たない感じです。

司会者： 湖南市に来たのはたまたまということですか。

参加者： 正直、信楽のプログラムでご縁があったのと、そこで出会った方々の近くに住みたいという思いがあり、滋賀県内で移住先を探していた時に、その方たちから「地域おこしで欠員募集をしている」という情報をいただきました。それまで、滋賀県の湖南市はどこかも知りませんでした。

司会者： 移住・定住先を探しているかたに湖南市に行きたいと思ってもらうために、商工会ではまちおこしで、湖南市の魅力を発信しています。移住、定住にかかわらず、今後、こういう魅力を発信してほしいというのがあれば、どなたか、教えてください。

参加者： どこでもそうだと思いますが、湖南市にも特にアピールするものがない、とい

う思いがあります。

司会者： それも踏まえて、新しいイベントに取り組んでいただいていると思います。青年部で、集まったときに、そういう話はありませんか。

参加者： 青年部でも湖南省から転出している人もいます。私は湖南省から事務所を移したことがないので、他の地域のことは分かりませんが、そんなに不便したことはありません。

参加者： 一時的に集客することはできますが、そこでアピールした後に「住みたいか」と聞かれれば、そんなものはない。駅前に調整区域が多くあって、都会に出るのに経由がかなりきつい。そうすると、ここで定住するよりも一歩先の JR 沿線に住んで、大阪や京都に行こうという若者のかたが多いのではないのでしょうか。

参加者： 湖南省出身ですが、市外に働きに行くとなると、近隣の栗東、守山、草津辺りにいた方がいいとなります。甲西駅は JR 草津線ですが、東京都からの最終の新幹線に乗っても、その日のうちに帰って来られません。

参加者： 住みやすさの条件で言えば、仕事が一番近いことだと思います。せっかく工業団地があるので、ここで住めればいいのですが、団地自体の高齢化が進んでいて、団地に残ることができません。そうすると市外に行こうかということになります。新しい団地があればいいなと思います。

司会者： 150 平米が一区画の住宅団地では、二世帯住宅ができない、物理的に面積が足りないということでしょうか。

参加者： 工業団地にも空き家や空き地があればそこに住めるのですが、現状詰まった状態で空き家を潰して建てるといっても、高齢者が多い団地には若い人は入りたがらない。

司会者： 入ったら、役ばかり当たりそうですね。例えば、仕事場が京都、大阪だと湖南省から出ようかとなるのですかね。

地域おこし協力隊の〇〇さんは陶芸家で、下田焼をするために来ていただきましたが、実際に湖南省に住んで、どのようなイメージをお持ちですか。

参加者： 先ほどの〇〇さんの話にもありましたが、湖南省に来る前は情報が全くなくて

とても不安でした。アナログ的な情報共有が発達していて、入ってからは安心しましたが、来る前は何も無くて「大丈夫かな」という、得体の知れない不安がありました。

司会者： 市のホームページで、湖南省はどういうところだとか調べられましたか。

参加者： 都市圏で住んでいる人は調べるのが前提で、かなり調べました。でも全然出て来なかったです。市のホームページを見ると、例えば、観光のページに数年前の写真が上がっていたり、テストサーバーにあるような公開されてはいけないようなものが上がっていたのもありましたので、湖南省は、「大丈夫なのか」と思いました。でも、入って見たら住みやすいところだと思いました。

司会者： 「住みやすい」という具体的なところはどこですか。

参加者： 広くて、緑があって、落ち着くという感じです。〇〇さんや私のように都市圏から移ろうと思う動機の一つにはなると思います。

司会者： 農業の関係で、湖南省の魅力の発信について何かありましたら、お願いします。

参加者： 何か物を魅力として発信するというのを考えるよりも、自分の働き方を自分で考えられるような会社で働きたいという希望があって起業をしましたが、それについて市からのサポートは一切ありませんでしたし、農業始めた時はむしろ「やめなさい」と言われました。

若い女性が市から出て行くというのがあれば、そういう人たちが働く場所や雇用ももちろん大切です。しかし、女性はいろいろあって正社員として働くことは難しいこともあるので、個人事業主をやる、小さなビジネスをやりやすいまちなど、新しいシステムを作り上げて湖南省の魅力として市が発信した方が良いと思います。自然ならば信楽や土山の方がきれいです。

起業したいという人は、私も何人か見てきましたが、結局辞めて出ていかれました。もし起業するためのサポートがあって、「ベンチャーが育つまち」みたいなイメージにしていけば、滋賀県内の市にはないので、定住につながるかも知れません。

司会： 「辞めた方がいい」と言われたのですか。女性で農業をするというのは、先駆的な考え方だと思ったのでしょうか。

参加者： その考え方自体が古いです。弥平とうがらしがあったから、ここでした。

司会： 今、女性で農業をしたいという人たちにはいますか。

参加者： とても多いです。滋賀県も女性のためのアグリビジネス講座を開いていますし、近江八幡も市としてもやっています。でも、受講者が農業をやっていくかと言えば、そこまでは至っていないようです。行政側にありがちな上からの目線の施策ですから、やりたい人の芽を摘んでいる感じを受けています。だから、私たちは、滋賀県で農業をやる女の人が増えたらいいな、というやりたい人目線でプロジェクトを立ち上げて、今やっています。だから、湖南市では、すぐに売る場所があるとか、加工所とかを市があっせんしてくれるという、サポートがあればいいと思います。行政が特産品を作ろうとしなくても、女の人は勝手に特産品を作ります。

司会者： 先ほど言われた新しいシステムを作るということですか。

参加者： 小さいビジネスが成立しやすいシステムですね。湖南市はベンチャーがしやすい、やりたい人は入っておいでとか、Web デザイナーの人が起業しやすいとか、そういうインフラを整えるとか。そうすれば若い人たちも帰ってくるかなと思います。

司会者： 銀行のかたでも何かこういった情報はありますか。

参加者： 情報は持ってないですが、湖南市の強みは、県下では最も大きい湖南工業団地だと思います。大企業が来ることによって、昔は働くかたが地方から転入してきて、その企業と協力する中小企業もたくさんあることで雇用もうまれています。ですから、企業を誘致することを優先的に考えて、調整区域も見直せば、企業が進出する土地にもなりますし、住宅地にもできると思います。そのあたりの土地の有効利用をすることができる政策をしていただけたらと思います。

そのほか、大企業の減税措置や起業される時に補助金を出す。また、そこで働くために転入する人の住宅手当をあつくる、そのような雇用と住宅政策も重要だと感じます。

参加者： 私は湖南市に来て 1 年半ぐらいで、出身は長浜です。長浜は人口の減少に関しては、湖南市よりももっと悲惨な状況で半減どころではありません。

湖南市に転入のかたは、「田舎のようで田舎でない」「京都まで何分、大阪まで

何分で行ける通勤圏のまち」という立地条件の良さで人を呼び込めると思います。

では、転出はどう抑えるか。皆さんの中にも大学で一度、外に出られて帰って来られない友達、知り合いは多いと思います。ですから湖南省に、大学の学部の一部を持ってくる。湖南省ならば、農業を売りにするのも面白いと思います。幸い、タキイ種苗の研究農場もありますから、全国で農業に興味のある人、本場のアグリビジネスをやりたい人に湖南省に集まって来てもらえるといいと思います。学生さんには、旧公民館を無償で提供するとか、無償にした分、学生は週に何回かボランティアをしなければならないとか、子どもの学習のお手伝いをする、という形で地域との交流を図り、若い学生を取り込むことができれば、活気あふれるまちになると思います。

また社会福祉にも糸賀先生と縁があるところですし、社会福祉の学校を呼んでくるのも、湖南省の一つの売りになるかと考えます。

司会者： 学校の誘致はかなりハードルが高い感じもしますね。ほかにありませんか。

参加者： 私は結婚して草津から湖南省の石部に来ました。1歳と4歳の子どもがいます。やはり子育て環境が充実しているところに移住しようかなと考えます。湖南省は1人目を生んだ時は問題ありませんが、2人目を生んだ時には、半年以内に職場復帰しないと1人目を保育園から退園させるという話があります。他の市でも同様です。会社では1年間育休を取ってもいいと言われても、2人目の育休を1年取るためには、保育園に通っている1人目を辞めさせなくては行けない。辞めても、復帰する時には、絶対に2人が保育園に入れるという確約がありません。私は一度手に入れた職場を手放すのがとても怖いので、半年で仕事に復帰しました。また、保育園によって利用時間が違います。夜8時までみてもらえるところと、私が利用しているような1時間しか延長保育ができないところがあります。どこの保育園に行くかでバラツキがあります。私は会社に対して「定時で絶対に帰ります」という契約をして働いていますが、それができない会社では、仕事を続けていくことが困難でしょう。

「子育て支援が充実している」とアピールできるような体制を取ることで、今いるファミリー世代も転出しないでしょうし、これから子どもを生もうと考えている近隣の方は湖南省に転入したいと考えられると思います。

司会者： 夫婦で居住先を決める場合、福祉施策が充実しているのと、職場に近いのではどちらを優先させますか。例えば、湖南省の福祉制度と栗東市の福祉制度を見比べて来られることもあるのでしょうか。

参加者： 私自身は結婚が早かったため、福祉制度を見比べることなく、職場から一番近い湖南省に住みました。

司会者： で、後からそういう情報を知ったということですね。

参加者： 家を建てる前に知っていたら、良い条件の方で家を建てていたと思います。通おうと思えば割と広い範囲の職場に通えますので、住みやすいところや子どもが学校に入りやすいところとか、そちらを重要視します。

司会者： Uターンについてですが、なぜ若い人たちが出ていくのかについては、大学に行く場合は大阪や東京、名古屋に行って帰って来ずに、そのままそこで就職しているためだと思います。その辺りに対する手立てはありますか。

参加者： なぜ出て行くかと言えば、交通インフラが不便だからです。例えば、通学時でもバスの便があまりにも少ない。雨が降ると学生のお迎えで駅の周辺が混雑します。高校生や大学生の送迎に時間が掛かるといرونなお母さんから聞いています。

これは自分が歳を取った時にも関わってくるのだと思います。北山台とか近江台とか、奥の方の古いサイドタウンに住んでいるおばあちゃんの世代の人たちは、バスの数が少なくて、医者に行くにも待つしかないということで不便です。子どもは運転ができるので行けます。足となるものが市内でもっと充実していたら、とても住みやすいと思います。

朝の時間帯だけでも駅に行くバスの本数を多くして、安く乗れるバスがあれば通学通勤に便利になり、住みやすくなります。

司会者： 例えば、東京に住んでおられるかたは、電車やバス、地下鉄があるので車を持っている方が不便なのですね。それで湖南省に来たら、免許がなかったら動けない。

参加者： 私は千葉の田舎の方に住んでいたのですが、循環バスというか、地域をぐるぐる回って運行しているバスがありました。便利でした。

司会者： ほかに大学生を呼び戻すことでご意見はありますか。

参加者： 先ほど、空き家がないという話がありましたが、空き家はあってもその情報がないのだと思います。

司会者： 湖南省はこれまで人口減少に対する意識があまりなく、移住・定住の事業に対して取り組んできませんでした。しかし、長浜や米原市は空き家の情報が出ていて、南北でも温度差があると思います。「こっちは大丈夫だから」と思っていたのですが、資料の人口推計のカーブを見ていただいたら分かるように、一気に落ちていきます。ですから、早く取り組む必要があると思います。

空き家に対する制度的な銀行の支援はありますか。

参加者： 長浜の事例で言えば、長浜には昔の長屋タイプの家に空き家があります。もともと長屋は銀行で住宅ローンが組めませんでした。銀行で空き家対策のために町屋住宅ローンを作り、今まで使えなかった住宅ローンも使えるようにして改築し、そこに住んでもらっています。これは長浜に限らず、湖南省でもできると思います。

司会者： 定住するには、自分でローンを組むなども大事ですが、行政がさらに支援しているところはありますか。

参加者： そこまでの確認はできてないです。

司会者： ということはあくまでも個人でローンを組んでいるということですね。行政からすれば、空き家があつて移住して来られた方に、情報発信以外に、どのようなサポートをすればいいのでしょうか。

参加者： 住民税減税とか、人に投資をすることでしょうか。

司会者： ほかにUターン以外でもJ Iターンでもいいですが、意見はありませんか。

参加者： 私たちはUターンしましたが、もともと高校から京都にいて、帰ってくるつもりは全くありませんでした。やはり「ダサイ」というイメージがあったので。でも、都会のサラリーマンはほとんどの人は3～5年で辞めたくなるものだそうです。大学を出たばかりの頃は、都会で働く辛さを分かっていませんから。私は東京でしたから、東京にいる意味とかをよく考えました。そういう人々を狙って、帰ってきやすさをアピールすると思います。全く新規の人を呼び込むには魅力が足りませんから、とりあえず1回出て行った人に「帰って来たらいいことがある」というのをつくればいいと思います。

司会者： その「いいことあるで」が難しいんですね。農業をしたいとか、自分で目的を持っている方はいいのですが、ただ、何となくという人に「いいことがあるで」という情報を送っても効果があるのか。

参加者： 長浜に絹市というシェアハウスがあって、古い町屋を改装して4人でシェアしていますが、そこにアメリカ人を2人住まわせています。そうすることで英語を勉強したい人が住みます。この辺りはブラジルの人が多いので、スペイン語とか勉強できるシェアハウスがあったり、インターナショナルなシェアハウスをたくさんつくったり。

そういう細かい仕掛けでもたくさんあれば、いろいろなターゲットにアピールできます。ファミリー世帯も多いのですが、私たちのような独身も最近は多いです、独身は話し相手が欲しいのでシェアハウスを好みます。

田舎だと生活にお金がかからないから、いい車に乗れるとか、そういうちょっとしたこともアピールになると思います。

参加者： 先日も大学生と話をしましたが、親は帰って来てほしいのですが、こちらにどのような仕事があるのか分からないようです。この資料にも「求人確保とマッチング支援」と書いていますが。

参加者： 都会で働いた人が工業団地で働く確率は低いと思います。起業している人やWebデザイナー、建築家がいるとか、そういったことを聞けば、自分もやってみたいと思うのではないのでしょうか。シェアオフィスなどは、私たちもほしいと思っています。起業5年目まで事務所として使えるスペースを貸し出してくれるとすごくありがたいです。電話やインターネットができる場を確保するのは非常に大変です。そんなシェアオフィスにいろんな業種の若者がいて、そこから情報が発信されてという感じです。

参加者： 草津市がやっている SOHO ビジネスオフィスの感じですね。家賃は安い方がいいだろうからね。空き家をそういったことに活用したらいいですね。

司会者： 何かほかにありますか。

参加者： まちづくり協議会で空き家調査をして、学区で 50 軒近い空き家がありました。そのうちの2軒を利用して毎年秋に開催している「みちくさコンパス」というイベントでワークギャラリーにしたり、カボチャのスイーツの販売をしたりして、空き家の有効利用をしています。

司会者： 団地の中の空き家より、旧東海道沿いの空き家を利用して、コミュニティビジネスで小物やカフェをして発展してくれたらいいと思います。

参加者： 「観光交流の活性化」というところで、商工会として観光について、今後の取り組みがあればご意見を伺いたいのですが。

参加者： 観光については、地元の人より外の視点の方が重要だと思います。例えば、お寺でも点在していますが、「歩け」と言われてもそれは酷な話です。また、夏祭りを企画して協力してほしいと言われていますが、イベントが多いんですね。主催者は商工会や観光協会だったりしますが、やっている人間は同じです。市がリーダーシップをとってほしいですね。

参加者： 同じ日に商工会と観光協会の行事をやったりしています。お互いに知り合いなのだから、うまく調整すればいいと思います。

司会者： もう少し組織をまとめて、効率良くやればいいということですね。

参加者： 弥平激辛サミットをあげあげサミットと一緒にやりたいんです。あげあげサミットは場所もいいし、お金をかけてPRしています。あげあげサミットは市の特産品を育てるのが目的で、弥平激辛サミットも同じような目的です。しかし、会が違うからと断られています。そういうところに市が入って、うまく調整してほしいと思います。

参加者： いくつかのイベントをまとめて大きなイベントにして、この季節にはこれと読めるような市全体で盛り上がるようなイベントがあればいいと思います。

参加者： 見直しが必要だと思います。イベントによっては参加を断られたりします。何のためにイベントをするのか。今まであったものを継続するだけではなくて、目的をしっかりと考えて一緒にするもの、やめるものなどを考えてもいいと思います。

司会者： コンセプトをもう1回考えないといけませんね。

参加者： あげあげサミットもそうですが、せっかく集客ができていますので、アンケートをとってはどうか。アンケートで、どのような客層が来ているかを把握する

ことができますし、どこが不便だったのかも気づきます。そして、ボランティアとしてでもいいので、市民にも参加してほしいです。

司会者： 県外から来た人の意見を聞く機会になりますね。ほかにありませんか。

参加者： 「真田丸」に関連して、盛り上がるようなものは何か考えていますか。

司会者： 湖南市の吉永山の三雲城に佐助が存在していたのではないかとされています。今、三雲学区まちづくり協議会で猿飛佐助を使ったイベントを、「みちくさコンパス」と併せてやっていこうか、と考えて市民のかたが動いています。市としてもそれをサポートしたいです。

参加者： 滋賀県でも長浜の方はよくあることなので、向こうのかたは慣れていますが、せっきくの機会ですから、乗っかれば魅力の発信になると思います。

参加者： 善水寺が14年ぶりに御開帳した時に、市外からかなり人が来られたので、そういう機会を捉えて、市内のイベントをアピールするといいと思います。

参加者： 私は善水寺の御開帳の時に当番をしましたが、「ご飯を食べるところがないか」とよく聞かれましたが、なくてがっかりして帰られました。その時だけでも駅前で、うどんでも出してもらったら良かったです。甲西の駅前で食べるところを増やす政策を考えてほしいです。石部の駅前も食べる場所も居酒屋もなくてひどいです。

参加者： 土産物もないし、買うところもないですね。

司会者： そうですね。いろんなご意見をいただき、ありがとうございました。